

子宮頸部癌新鮮例における画像誘導を用いた小線源治療の最適化

1. 研究の対象

2000 年 4 月 1 日から 2019 年 6 月 28 日に新鮮子宮頸癌に対し大阪国際がんセンターで放射線治療を受けられた患者さん。

2. 研究目的・方法

子宮頸癌に対する放射線治療は 100 年以上前から行われている標準治療の一つであり、現在、外部照射＋小線源治療（腔内照射）という形で行われます。特に腔内照射において、MR 画像を用いて治療する手法が登場し、欧米を中心に増加しています。そこで腫瘍制御率向上のために線量不足の場所に線量を追加するため組織内照射針を使う腔内・組織内照射併用治療や組織内照射が行われるようになりました。一方本邦において MR 画像や組織内針を用いて治療を行っている施設は当施設を含め数施設にとどまります。そこで、同方法を導入している施設において、それぞれの治療方法の特徴を検討して、どの治療がどのような症例に有効であるかの解析を実施します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

腫瘍因子（大きさ、TNM 等）、患者因子（年齢、合併症の有無等）、治療因子（化学療法、治療線量等）さらに治療経過（局所効果、生存状態等）等

4. 外部への試料・情報の提供

当院は研究分担施設として研究責任施設の京都府立医科大学に個人情報（カルテ番号、名前、生年月日など）を、符号をつける等で特定できないようにして情報を提供します。

5. 研究組織

研究責任者

京都府立医科大学放射線科 特任教授 山崎 秀哉

研究担当者

京都府立医科大学放射線診断治療学 助教 増井 浩二

京都府立医科大学放射線診断治療学 助教 武中 正

共同研究機関

大阪医療センター放射線治療科 科長 田中 英一

大阪医科大学 放射線治療科 診療准教授 吉田 謙

大阪国際がんセンター放射線腫瘍科医師 森本 将裕、小西 浩司、手島 昭樹、

婦人科 医師 久 毅、太田 行信、上浦 祥司

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画

書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

当院の研究責任者 大阪国際がんセンター 放射線腫瘍科 森本 将裕

住所：〒541-8567 大阪府中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

-----以上